

うぶね[鵜舟] 2018年11月発行

岐阜大学医学部附属病院広報誌

Vol.38

Gifu University Hospital

うぶね



特集

腫瘍外科学分野 吉田 和弘

就任紹介

泌尿器科学分野 古家 琢也

イベント

リレー・フォー・ライフ・ジャパンなど

お知らせ&NEWS

看護補助者募集など



腫瘍外科から新たに
世界に発信!

今回の表紙は病院長率いる
腫瘍外科の皆さんです!

患者さん中心の診療と 4つの目標の実践

岐阜大学医学部附属病院病院長

岐阜大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学分野教授

よしだ かずひろ
吉田 和弘

PROFILE

1984年、広島大学医学部卒業。英国オックスフォード大学ジョンラドクリフ病院留学。広島大学病院講師を経て、2007年岐阜大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学分野教授。2008年岐阜大学医学部附属病院がんセンター長（併任）。2018年4月岐阜大学医学部附属病院病院長。60歳。

岐阜大学腫瘍外科は、食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝臓・膵臓を中心とした消化器癌と乳癌の外科手術のみならず、化学療法を含めた癌の集学的治療を行う癌治療・研究・専門分野です。更に、急性腹症などの救急外科や小児外科も担当しています。何よりも、患者さんやそのご家族に「大学病院へ来て良かった」と言ってもらえるように、患者さん中心の診療を実践しております。

当科での4つの目標

- 1 腹腔鏡・胸腔鏡手術やダヴィンチ手術などの低侵襲手術療法の開発。
- 2 機能温存手術の開発。特に直腸がんでの肛門温存手術、胃の幽門輪温存や乳房温存など。
- 3 Conversion therapyの開発。すなわち切除不能進行癌を抗がん剤治療により切除可能にすること。
- 4 新たな治療の開発のための治験・臨床研究を推進し、岐阜から世界にエビデンスの発進を行う。
すなわち、新たな治療を創成できる病院として貢献する。



腫瘍外科から新たに世界に発信

平成19年（2007年）8月に岐阜大学大学院医学系研究科の腫瘍外科学分野教授に着任して以来、消化器外科全般と乳腺外科を担う診療科教室として診療ならびに研究に日々邁進し早いもので11年が過ぎました。

教室の特徴として、従来型の個々の研究ではわからなかった医学的エビデンスを明らかにするため、多施設共同での研究を積極的に実施してきました。その成果として2017年3月末までに全国レベルの臨床試験合計170試験、さらに治験においても合計37治験を経験して参りました。また臨床試験に参加するだけでなく、その中心となって行くことを目標とし教室員一同努力した結果、私共はASCO（米国臨床腫瘍学会）、ESMO（欧州臨床腫瘍学会）などにおいて日本の施設代表者として講演ならびに教育講演も行う機会を得ることができました。また当医局員からもASCO、ASCO-GIと同じく発表の機会を得ることができたり、論文誌上報告なども数多く、日本の施設代表者として発表する機会を得ています。このように国内だけでなく海外でも活躍できる人材を育成しグローバル・リーダーシップを執れる若手外科医を育てることを教室の理念・方針としています。そしてこのことが岐阜地域の医療に貢献するものと考えています。

また昨年は「StageⅢの治癒切除胃癌に対する術後補助化学療法としてのTS-1+Docetaxel（併用療法）とTS-1単独療法のランダム化比較第Ⅲ相試験（JACCRO GC-07（START-2）」において主任研究代表者を行い、中間解析結果において極めて有効である結果を得ることができ、約10年ぶりに胃癌補助療法の有効性を証明することができ、診療治療ガイドラインを塗り替えるような結果が得られました。このように岐阜大学の腫瘍外科から新たに世界に発信できるように日々教室員一同努力しています。各疾患チーフより最新の治療成績および特徴を紹介させていただきます。



乳がんの治療

乳腺外科 准教授 二村 学



乳がんは女性のがんの中で最も頻度が高く増加の一途を辿っており、その克服は日本のみならず世界的な課題です。当院では大学病院としての使命を果たすべく一致団結して以下のように乳がん向き合っています。(1) 整容性を追求した局所療法を行います。乳房温存手術、乳房再建術の他、非手術療法のラジオ波焼灼療法も導入し究極の局所療法を行います。(2) 進歩する薬物・放射線・外科療法を組み合わせた集学的治療によって難治性乳がんの根治を目指します。(3) 若年者乳がんに対する妊孕性温存を産婦人科と連携して行い乳がん治療後も妊娠・出産の可能性を追求します。(4) 多くの臨床試験・治験への参加に加え、関連病院との連携で当院発の新規治療レジメンの開発・発信を行っています。(5) 遺伝性乳癌に対する遺伝子検査、予防的乳房切除にも取り組みます。(6) 基礎研究から乳がんの病態解明に努めます。これらを通し院内の職員、地域の医療関係者、住民の皆様様に信頼される乳癌診療を行って参ります。

食道がんの治療

消化器外科 講師 田中 善宏



食道がん、逆流性食道炎、食道アカラシア、食道良性腫瘍、食道破裂などを治療させていただいています。身体に負担のかからない内視鏡を使用した食道手術を積極的に行っています。縫合不全（首の食道と胃のつなぎ目から消化液がもれてしまうこと）率は全国平均15～20%に対し、0.7%台と驚異的に低率で、安全に行っています。学会認定専門医の吉田病院長・田中の2名が執刀いたします。実際の経過は、口腔外科・理学療法科・栄養科・循環器科・耳鼻咽喉科と連携し、患者さんファーストの安全・安心さを求め、初診から抗がん剤・手術・その後の外来までの通院生活を、顔の見えるスタッフが継続して実施いたします。365日・24時間体制で、不都合が発生すれば対応可能です。新しい抗がん剤の組み合わせを8年かけ2種類開発し、従来の抗がん剤の効果は38%前後の患者さんで得ることができましたが、それらの治療法は89%前後まで効果があがりました（42%の患者さんでがん細胞が消えかけ、20%の患者さんで完全にがん細胞が消失していました）。手術の管理は、専門的な知識を有するスタッフが対応しております。栄養管理部門でも日本をリードしてきました。腸の免疫能と治療の身体への負担に対し、アミノ酸内服が抗がん剤の副作用を減らし体重を減らさないなどの研究を続けており、国内での検証中です。検診・ドックで、早期に発見されることで内科的な治療も可能です。ただ進行例で当科を受診される方がほとんどです。水も通らなくなった患者さんが完治する例も多数存在します。なので決してあきらめなないでください。万全の治療スタッフ・治療方針がお待ちしております。新規治験も国内先駆けて参加しているため、免疫療法のご相談も承ります。

大腸がんの治療

消化器外科 講師 高橋 孝夫
がん先端医療開発学講座 特任准教授 松橋 延壽



岐阜大学腫瘍外科の大腸チームは大腸癌を含めた悪性腫瘍が中心ですが、クローン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患、そして痔核、痔瘻、直腸脱などの診療にあたっています。特に力を注いでいることは、機能温存術のひとつとして、究極の肛門温存術である高難度手術ISR（内肛門括約筋切除術）を腹腔鏡で行うことです。これについては良好な成績であることを誌上報告しました。さらに排便障害の患者さんにおいては仙骨刺激療法を岐阜県内で初の認定施設となり積極的に治療を行っています。低侵襲手術に関しては大腸癌9割以上を腹腔鏡で、最近ではロボット支援下直腸手術も行っています。また最近では分子標的薬など化学療法が進歩したため、切除不能大腸癌に対し、積極的治療を行い、腫瘍を小さくさせた後に根治切除を行う、いわゆるConversion therapy（Surgery）症例が増加しています。更に局所進行直腸癌に対し新たな治療法として術前化学放射線療法（オキサリプラチン+S-1）を用いて根治手術を行う臨床試験（PerSeUS-RC01）を当科関連病院と共同で行い、現在解析中です。このように岐阜地区での新たな治療法の開発を行うための臨床試験を行い、岐阜から全国に情報発信できるよう努力しています。

胃がんの治療

低侵襲・がん集学的治療学講座 特任教授 山口 和也



当科の胃がんに対する外科的治療の主な特徴は以下の3つです。①患者さんにやさしい低侵襲手術（腹腔鏡手術やロボット支援下手術）、②外科的切除不能な進行癌（最も進行したステージ4胃がん）に対する抗がん剤治療後の手術、③ノーベル医学生理学賞で話題になった免疫チェックポイント阻害薬を中心とした抗がん剤治療の治験。①は5-15mmほどの小さな創5か所から胃切除を行うもので、通常の開腹手術と比較して発熱・血液検査上の炎症所見が軽く、術後の回復が早いというメリットがあります。早期胃がんはもちろん一部の進行癌でも適応としています。②のステージ4胃がんは、ガイドライン上、抗がん剤治療のみが推奨されていますが、③の治療も含めて抗がん剤が著効した場合、その後の切除術が治療成績の向上につながることを確認しています。③は近い将来、強力な選択肢として期待される新たな薬物治療開発で、適格基準を満たす患者さんにご参加いただけます。以上のように、病状に応じた個別化治療にそれぞれ特徴をもって診療にあたっております。

肝・胆・膵の治療

消化器外科 講師 今井 寿

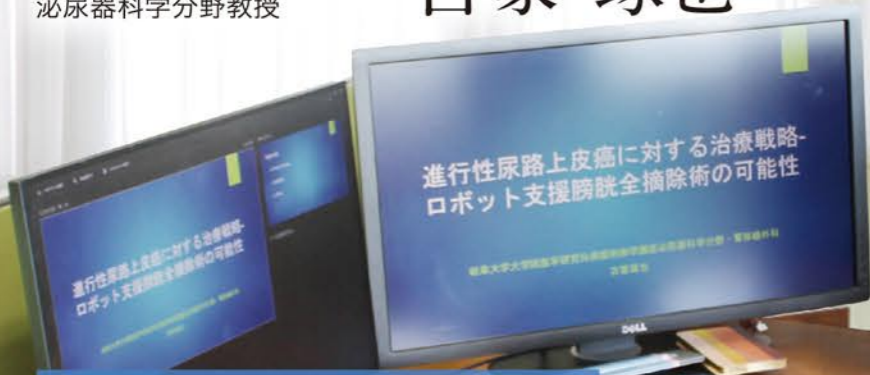


肝胆膵外科とは肝臓、胆道（胆嚢や胆管）、膵臓の病気をおもに手術で治療する分野です。これらの病気には胆石症のような比較的身近な疾患から、肝臓がん、胆嚢がん、膵臓がんのような悪性疾患まで非常に多種多様な病気が含まれるため、その手術も多種多様である点が特徴です。また、肝胆膵領域の“がん”は悪性度が高く、完治を目指すためには難易度の高い手術が要求されます。我々の科には肝胆膵外科高度技能専門医が在籍し、岐阜大学病院は高度技能専門医を育てることができる施設ですので、高難度手術も安全、確実に行うことが可能です。膵臓がんにおいては手術での切除が難しい場合もありますが、術前の抗腫瘍治療と手術を組み合わせ、根治の可能性を追求する全国規模の臨床試験（NAC-GA trial）に参加し良好な結果が得られております。また、近年はお腹にいくつかの小さな穴を開けて手術を行う腹腔鏡手術が急速に普及しており、これまで大きな傷が必要であった肝臓や膵臓の手術も小さな傷で行えるような時代になりつつあります。

ロボット手術を導入し 国内トップレベルの水準へ

岐阜大学大学院医学系研究科
泌尿器科学分野教授

こいえ たくや
古家 琢也



PROFILE

最終学歴
1998年 4月/弘前大学大学院医学研究科卒業

職歴
1994年 4月/弘前大学医学部附属病院医員
1999年10月/弘前大学医学部助手
2002年11月/弘前大学医学部附属病院講師
2012年11月/弘前大学医学研究科
泌尿器科学講座准教授
2016年10月/弘前大学医学部附属病院臨床教授
2018年 8月/岐阜大学大学院医学系研究科
泌尿器科学分野教授

1 泌尿器科について

泌尿器科で扱う病気は、腎臓、膀胱、前立腺、精巣のがんをはじめ、結石、前立腺肥大症などによる排尿障害、感染症、副腎腫瘍による内分泌疾患、男性更年期、腎不全、腎移植などで、多くの病気を幅広く診療する科です。最近ではロボット手術が様々な病気に応用されていますが、当科でもロボット手術を積極的に行っています。ここでは、前立腺がん、膀胱がんに対するロボットを用いた最新の治療について紹介いたします。



ロボット手術(ダヴィンチ)を使用した手術

主な疾患・診療内容



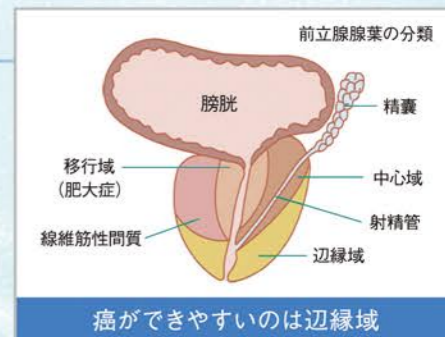
泌尿器科のみなさん

2 増加傾向にある前立腺がん

前立腺がんに対するロボット手術は、現在多くの施設で行われています。しかし手術の質という点では、施設によってかなりのばらつきがあります。当科では、より洗練した術式を追求してきたことで、手術時間が2時間程度になりました。これは、国内でもトップレベルの水準です。

また前立腺がんは、再発のしやすさの程度によってリスク分類がされています。最も再発しやすい高リスク前立腺がんに対する手術は、多くの施設で敬遠され、放射線治療が選択されています。一方最近の研究で、放射線に比べ手術をしたほうが、より長生きできるといった報告が相次いでいます。ところが、実際に手術を行うには高い技術が必要なため、実際に施行できる施設は限定されます。当科では、手術前に注射と飲み薬で癌を抑え込んでからロボット手術を行うことで、再発率の大幅な改善に成功しました。

前立腺がんには様々な治療法がありますが、患者さんの病状や年齢に合わせた治療法の選択が重要です。当科のロボット手術は高い技術を有しており、より短時間で手術を終わらせることで、より低侵襲で安全な医療を提供できます。

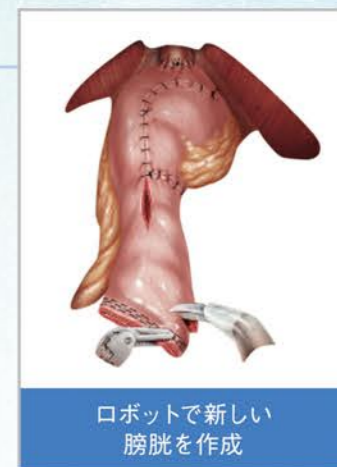


3 早期発見が肝要な膀胱がん

膀胱がんは、膀胱(尿をためる袋のような臓器)にできる悪性腫瘍ですが、その多くは早期がんですので、内視鏡で切除できます。一方2割程度の患者さんでは、がんがすでに進行しています。進行膀胱がんは非常に悪性度が高く、手術だけではおよそ半分の患者さんが5年以内に亡くなります。そこで当科では、手術前に抗がん剤による治療後、手術を行ってきました。術前に抗がん剤治療を2コース行い、治療終了後1か月以内に手術を行うことで、およそ8割の患者さんが再発なく過ごせるようになりました。

また、膀胱を取ったのち、おしっこをどのように外に出すかを考えなくてはなりません。多くの人が、ストーマを想像し、それが嫌で手術をしたくないといわれる患者さんもいます。当科では、これまで通り自分でおしっこを出すことのできる新膀胱を積極的に行っています。この方法により、手術後の生活の質の向上もはかっています。

膀胱の手術は難しい手術ですので、手術時間も長く、出血も多いことが難点でした。今後当科では、この手術に対してもロボット手術を導入し、より低侵襲な治療を提供していきます。病気の進行度によってはご希望に添えない場合もありますが、是非お気軽にご相談いただければと思います。



ロボットで新しい膀胱を作成

座右の銘

昨日の自分を 1cmでもいいから超える!

人の成長には、日々の努力の積み重ねが大切です。昨日の自分より少しでも前に行けたら、その積み重ねがやがて大きな成長につながるものと信じて、日々過ごしています。



桜咲く弘前城の外濠にて
愛犬のコロと

private time

Pickup 1 第10回 全国でPUSH! 運動



2018年8月6日(月)

「全国でPUSH」運動とは、8月10日の『健康ハートの日』にちなみ、心肺蘇生法の普及を啓発する運動です。市民を対象にした心肺蘇生法を短時間で学ぶことができる講習会“PUSHコース”を全国の会場で開催し、誰もが心肺蘇生ができてAEDが使えるようになってもらうことを目標としています。

当院では毎年開催しており、当院1階イベントコーナーで開催しました。小学生を中心に約30名の皆さんが、簡易心肺蘇生トレーニングキット「スクーマン」などを使って楽しく胸骨圧迫やAEDの使用法などを学びました。心臓突然死は誰にでも起こりうる事です。目の前で倒れた大切な人を助けることができるのは、その場にいるあなただけです。一人でも多くの方が助かるよう、今後も学校や地域で心肺蘇生の短時間講習会を開催していきますので、皆様も機会があればぜひご参加ください。



岐阜県ドクターヘリの 出動回数3000回報告会!



2018年8月20日(月)

平成30年8月10日、岐阜県ドクターヘリが運航開始した平成23年2月から数えて3000回の出動となり、8月20日に報告会を実施しました。報告会には吉田和弘病院長をはじめ、ドクターヘリに搭乗するパイロットや医師、看護師らおよそ20名が出席しました。看護師から、運行を担うセントラルヘリコプターサービスのパイロットと整備士に花束が送られ、安全運行への感謝の言葉が述べられました。最後は全員で記念撮影を行いました。



第9回 キッズ サマースクールを開催!



2018年8月21日(火)・22日(水)

今年は職員の子供たち39人が2日間のプログラムを楽しみました。キッズサマースクールは、岐阜大学医学部・同附属病院 女性医師就労支援の会が毎年開催しているもので、小学生児童は保護者と一緒に職場を訪れ、病院各部署の協力で行われる多様なプログラムに参加し保護者の職場に触れながら過ごすことができます。今年度は、内視鏡外科手術トレーニングセンターでの実習や、胃カメラ・超音波などの医療検査機器の体験、医療翻訳について学ぶ講座などを企画しました。子供達は、大学生と一緒にプログラムに参加することで、保護者が勤務中でも充実した夏休みの時間を過ごすことができ、また、このスクールを通じ沢山の友達もできたようです。

長良川中日花火大会生中継!



2018年8月25日(土)

当院1階アトリウムにおいて、岐阜市で開催された「第62回全国選抜長良川中日花火大会」の様子を生中継しました。

この企画は当院さわやかサービス推進室の主催で行われ、当日会場まで足を運ぶことのできない入院患者さんをはじめ、たくさんの方に病院で花火を見てもうらことを目的に企画しました。

当日は約100人の方が集まり、250インチの巨大なスクリーンに映し出された花火の様子に見入っていました。大きな花火が打ち上げられると、歓声や拍手がおこり、夏のひとときを楽しみました。



Pickup 2 リレー・フォー・ライフ・ ジャパン 2018 岐阜



今年のテーマ「つなげよう次世代へ〜垣根を越え集い語らう」

2018年10月13日(土)・14日(日)

リレー・フォー・ライフ(RFL)は、がん患者さんとそのご家族、支援者の方々が、地域社会とともにがん征圧を目指して絆を育み、勇気と希望を分かち合うチャリティーイベントです。会場は、ステージでの歌の生演奏やチームテントエリアでのイベントなどで盛り上がりました。夕刻、ウォーキングコースには、がんで亡くなった方を偲び、現在がんと闘っている方を励ますためのルミナリエが灯され、思いの込められたメッセージが暖かい光の中に浮かび上がりました。この2日間に全国から約530名の参加者が集い、約84万円の寄附金が集まりました。



ルミナリエ

がんとの闘いを讃え、偲び、その歩きだす 勇気の言葉を会場いっばいに灯しました。



段幕を掲げる 参加者



看護師から がん患者さんに 向けられたメッセージ



夏休みお留守番部屋



2018年8月20日(月)・23日(木)・24日(金)

女性医師就労支援の会では、子供を持つ職員から、夏休み期間は学童保育がないので、子供を預かる仕組みがほしいとの要望に応えるため、より多くの保護者が手軽に利用出来る保育支援として、医学部棟の教室を職員の子供にも開放する「夏休みお留守番部屋」を試験的に実施しました。3日間の期間中、中学生を含め延べ66名の児童が「夏休みお留守番部屋」を利用しました。各日3-4名の岐阜大学の大学生が見守る中、子供たちは勉強をしたり、おもちゃで遊んだりしながら、お友達と楽しく保護者の仕事が終わるまでの時間を過ごしました。



もっと知ってほしい 大腸がんのこと 2018 in 岐阜



2018年10月14日(日)

ブルーリボンキャンペーンは、大腸がんの予防・検診から診断方法、内視鏡治療、外科的治療、そして薬物治療にわたり正確な大腸がんの情報を広く一般の皆様にご提供いただくことを目的とした啓発活動で、全国各地で開催されています。今回は岐阜大学病院が中心となり、NPO法人がんネットジャパン、岐阜県図書館の御協力のもと、岐阜県図書館で開催しました。大腸癌研究会会長 杉原健一先生とアナウンサーの中井美穂さんをお招きし、当院からは吉田病院長、光学医療診療部の荒木先生、腫瘍外科の松橋先生と高橋先生、そして刈谷看護師長と仲間様が登壇しました。

また岐北厚生病院の西村先生にも講演をお願いいたしました。当日は610名の参加があり、多目的ホール、サテライト室が入りきれなくなるほどでした。聴衆からのアンケート調査では、満足であったという声が多く寄せられ、大盛況のうちに終了しました。



看護補助者・看護事務作業補助者募集！

- | | | | |
|-----------------------|---|---------------|--------------------------------------|
| 看護補助者 | ①患者のシーツ交換
②食事介助・清拭・足浴
③車椅子による搬送 他 | 給与 | 看護補助者 時給 1,050円
看護事務作業補助者 時給 970円 |
| 看護事務
作業補助者 | ①入院患者に関する書類処理
②面会者への対応
③電話対応 他 | 勤務時間 | 週30時間
(1日6時間、週5日勤務) |
| | | お問い合わせ | 人事労務係
TEL：.058-230-6055 |



栄養管理室発案

特別メニューの日に季節の食事を企画！



患者さんの声

入院してこんなに美味しい食事をいただけるなんてとても感動しました。日ごろなかなか食欲がわかみませんが、見た目も味も素晴らしく今日は完食できそうです、嬉しそうに話してくれました。

今年度7月から月に1回、入院患者さんに季節や祝祭日を感じていただけるような食材を使用した特別メニューを始めました。お食事には旬の食材の紹介など手作りのメッセージカードを添えております。

11月は、初めて弁当箱の使用を試みました。蓋を開けた時に患者さんが喜ばれる顔を想像しながら、おかずの品数も9品にして少しずつ色々な味を楽しんでもらえるような献立にしました。食堂で食べられていた患者さんが、「お弁当だといつもと気分も変わり久しぶりにウキウキして食事ができました。」と、うれしそうに話される姿を目の当たりにして、入院生活の中で食事が楽しみとなるように、今後も栄養管理室が一丸となり様々なメニューを考案していきたいと感じました。

栄養管理室／管理栄養士 西村佳代子

アクセスマップ

岐阜大学

- 医学部附属病院
- 大学院医学系研究科
- 医学部医学科
- 医学部看護学科



自家用車で越しの方は、外来患者駐車場が約600台ありますのでご利用下さい。(24時間利用可)
※大学院前交差点よりご来院ください。

【駐車整理料金】

区分	駐車時間(入構時間)による料金				備考
	30分まで	60分まで	60分~90分	90分~24時間	
外来患者	無料			100円	加算金額 500円/24時間
・入院日当日の患者及びその付添者 ・退院当日に来院したその付添者 ※入院期間中継続駐車している 場合の退院日は含まない。	無料			100円	加算金額 500円/24時間
一般外来者 ※面会・お見舞い 他	無料	200円		加算金額 100円/1時間 (上限500円/24時間)	加算金額 500円/24時間

- 認証機設置場所 / 平日(8:30~17:00) 1階会計窓口・入院センター・退院窓口・その他の時間1階夜間受付
- 事前精算機設置場所 / 1階エントランスホール・1階時間外出入口

【病院へのアクセス】

鉄道	JR	東海道本線 「岐阜駅」で下車	
	名古屋鉄道	名鉄本線 「名鉄岐阜駅」で下車	
バス	岐阜大学・病院線	約30分	320円
	直行便清流ライナー	約25分	
	岐南町線	約40分	
タクシー	JR岐阜駅 名鉄岐阜駅	約20分	約3,000円